

# 国際地球いきもの会議

## 生物多様性条約について

「生物多様性条約」は、国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約や、絶滅のおそれのある野生生物を守るワシントン条約など特定の地域や種の保全にとどまらず、包括的に生物多様性の保全や持続可能な利用を目的に、1992年にリオ・デ・ジャネイロで開かれた地球サミット（国連環境開発会議）で生まれました。この締約国会議では、各種の国際的な枠組みを議論するため締約国がおおむね2年ごとに集まり、2010年には、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が10月18日（月曜日）～10月29日（金曜日）愛知・名古屋で開催されます。

### 条約の3つの目的

- ・地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること
- ・生物資源を持続可能であるように利用すること
- ・遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ衡平に配分すること

### 生物多様性条約 COP10/MOP5 における主要議題

COP10では、第6回締約国会議（COP6）で採択された2010年目標「締約国は生物多様性の損失速度を2010年までに顕著に減少させる」の達成状況の確認とそれを踏まえた2010年以降の条約実施の枠組みや遺伝資源を活用した食品、医薬品等の利益配分（先進国と開発途上国間の調整）など、さまざまな議論が予定されています。

### 四谷の千枚田とCOP10

生物多様性条約第10回締約国会議招致委員会（名古屋商工会議所・中部経済連合回・愛知県・名古屋市）における同会議「あいち・なごや招致構想」コマーシャル誌で地域からの行動の展開「人の暮らしと自然が調和した里山のある風景」として掲載された。COP10では里地里山の生物多様性を担う「四谷の千枚田」がにわかにクローズアップ。各種団体の自然観察会、ウォーキング、絵画教室、撮影会が頻繁に行われている。また、大会期間中は公式エクスカージョン会場として秀麗 鞍掛山と四谷の千枚田がおりなす自然「里地・里山」が世界各国の人々に披露される。



外資系製薬会社A Z社は社会貢献活動の一環とし、三千人の社員が平日の一日、全国各地でボランティア活動を実施、すでに五年間を継続し地域の活性化に寄与している。四谷の千枚田では社員二十二名がCOP10関連会場となる「ふれあい広場」の環境整備に汗を流した。



四谷の  
千枚田だよ



第86号

千枚田を築く石垣苔むして  
永き歲月語りかけくる  
四谷小山志ずり

アストラゼネカ社地域に貢献  
十月八日、四谷の千枚田でボランティア活動

### 稲刈り

好天に恵まれた九月二十九日午後、全校児童(九名)による「千枚田稲刈り」が行われた。田んぼには子供よりカメラマンの方が多く、ビックリ子供たちは張り切って稲刈りを行った。軽トラで積んで持ち帰った稲は、校門横に設置した「はぎ」にかけて、しばらくの間天日干しをする。田起こしから始まった千枚田活動も、いよいよ大詰めに近づきつつある。

今後の予定は、十月十三日(水)脱穀、十月二十七日(水)もみすり、十一月二十七日(土)もちつきとなる。



### 脱穀

九月二十九日、豊橋調理製菓専門学校生達は四谷の千枚田で田植え、田の草取り、稲刈りはぎ架けと丹精込めて作った稲の脱穀を行った。

この体験学習は同校の校長補佐の伊藤久枝さんが「将来、食のプロとして活躍する学生たちにも食の原点である米づくりを体験させたい」と、三年前より実施されている。



学習内容は稲の生育調査のほか田んぼの生きものなど自然環境調査、また、地域の自然や歴史等についても学んだ。同校では秋に地元豊橋市主催のイベントで、この体験で収穫したお米を使った料理等を例年出品しており、今年も実施する予定。

### こども農学校

こども農学校では「ふるさと奥三河の大自然の中で食と農を学ぼう」と題して毎年実施している。

その一課程として子供達(六十五名)は千枚田保存会顧問の高橋庄一の指導で稲作体験を行っており、九月二十五日に稲刈りを行った。

### 景観環境整備

十月三日、保存会はふれあい広場、千枚田入り口付近の草刈りを行った。九月四日に行う予定であったが、異常な高気温が続き、熱中症など、危険を回避、ひと月遅れの作業となった。(あいち森と緑づくり事業)



### うまいーを明日へ！第4弾

アサヒビールはスーパードライ一本につき一円をCOP10支援

実行委員会などに寄付し、生物多様性への理解を深める活動や、自然との共生に向けた取り組みに役立てていただいている。

四谷の千枚田は第二弾、第三弾、そして第四弾が環境保全コマーションとして頑張っている。



### 藁出荷

横浜ゴム新城工場は四谷の千枚田保全支援として毎年、高価格で藁を購入していただいている。

生産性の低い棚田の百姓は思わぬご褒美に、横浜ゴム様々と大変喜んでいいる。

行 平成二十二年十月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二